

幼思が

賢くなる絵本

すくすくどんどんの

教育デザイン研究所

幼児が賢くなる絵本

絵本は幼児を賢くする

絵本の楽しみ方

絵本の選び方

お薦め絵本

6カ月ぐらいから

1歳ぐらいから

2歳ぐらいから

3歳ぐらいから

4歳ぐらいから

5歳ぐらいから

●乳幼児向きのわかりやすい絵や写真を使った絵本

「家の中のもの」「ようふく」「おもちゃ」「たべもの」「どうぶつ」「のりもの」など



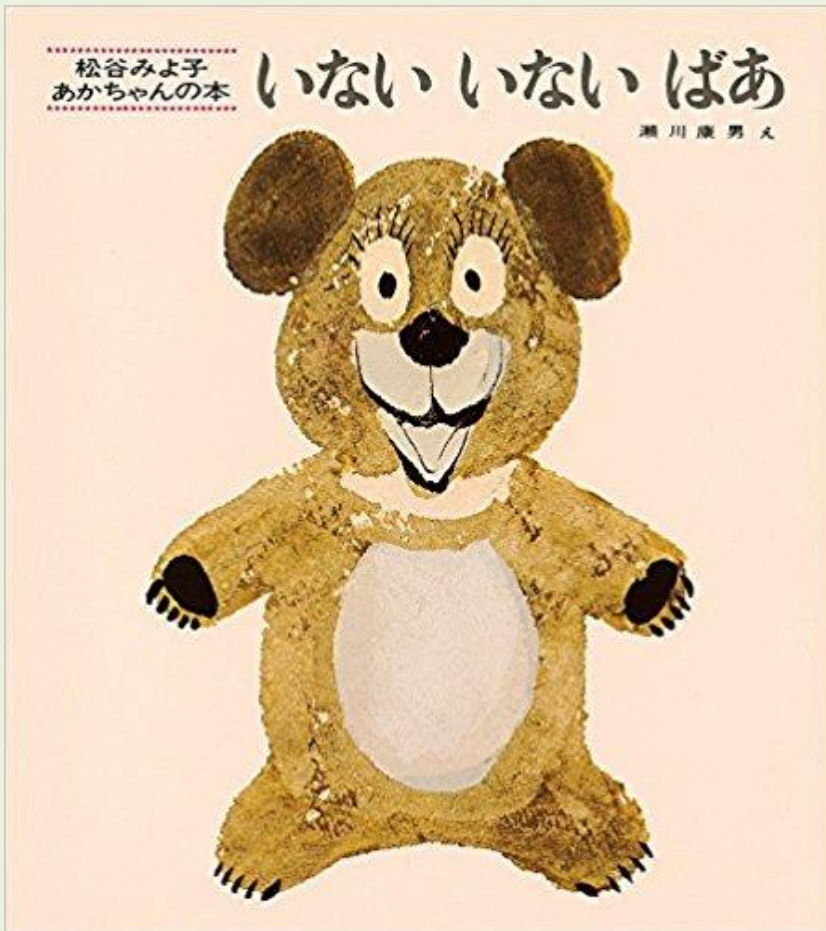
ママと赤ちゃんのたべもの絵本 (3)
くだものぱっくん

2008/1/29
真木 文絵 (著)
石倉 ヒロユキ (イラスト)



どうぶつ絵本
はじめまして

2008/4/26
Xavier Deneux
(グザヴィエ・ドウヌ) (著)



「いない いない ばあ」

松谷みよこ・作
瀬川康夫・絵
(童心社)

ーわが家の長男は1才すぎの頃、この「いない いない ばあ」の絵本で遊ぶのが大好きでした。ねこ、くま、ねずみ、きつねが次々に「いない いない」といいながら出てきては、次のページで「ばあ」とやってくれるのが、うれしくてたまらない様子でした。ちょうど自分でも「いなーい ばあ」と片言で言えるようになってきていたので、私が読んでやるのと一緒に自分も声を出して遊んでいたようです。

絵本の本文では、「にゃあにゃ」とか「こんこんぎつね」とかいったことばが使われていますが、私は赤ちゃんことばはかえってわかりにくいと思ったので、「ねこさん」「きつねさん」と言い替えて読んでいました。

最後の「のんちゃん」のところをすぎると、「こんどは、〇〇くんが・・・」とか「おかあさんが・・・」
「いない いない ばあ」と言って、顔をかくして遊びました。

この段階の絵本はそれを使って遊ぶことが目的ですから、絵本で遊ぶ側が自分に都合がよいように適当にアレンジして楽しんでもよいのではないかと思います。

わあ！おいしそう



作：メアリー・マーフィ
翻訳：小川 仁央

(評論社)

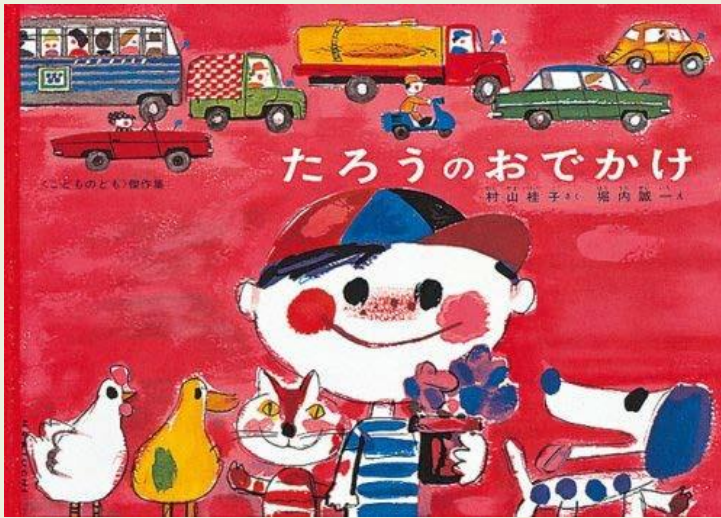
サブタイトルは、「たべる のむ かんじる みる きく かぐ」。いかにも外国の絵本というかんじの、カラフルでシンプルながらもかわいい絵の絵本です。

食べ物を食べる時には、単に口からものを食べるだけでなく、においを感じたり、色や形を見たり、いろいろな感覚を使いながら、味わって食べているものです。

この絵本では、五感についてわかりやすくやさしい場面が描かれていますので、お子さんと絵本を見ながら、「おいしそうね」「ポテトのいいにおいがしているよ」「においは、どこでわかる(感じる)のか知ってる？」などと、いろいろお話をしてみるのもよいでしょう。

「ごっくごっく」「すべすべ」「ちゃっぷちゃっぷ」など、様子をあらわすことばもたくさん出てきます。こんな絵本は、楽しみながらことばを豊かにするきっかけとなっていていいですね。

たろうのおでかけ



村山 桂子

堀内誠一：絵

(福音館書店)

たろうが動物たちを連れて、仲良しのまみちゃんの家
にでかけてゆくお話です。たろうたちはいろいろな所
を通ってゆくたびに、「だめ だめ だめ」とまわり
の大人から注意されます。みんなはそのたびに「つま
らない」と思うのですが、注意を守って歩いていきま
す。

たろうについてゆく動物たちは、いぬのちろー・ねこ
のみーや・あひるのがあこ・にわたりのこっこ。
こどもは親しみやすい動物たちの名前をすぐに覚えて
しまいます。

この絵本には、幼児が自分で散歩に出かける楽しさが
あふれています。絵本を見ている幼児たちは、自分が
たろうになったような気分で、いろいろな場所を通り、
ちよっぴりあぶない目に会ってドキドキしながら、交
通ルールを理解していくことでしょう。

おおきなかぶ



A.トルストイ：作

佐藤 忠良：絵

うちだ りさこ：訳

(福音館書店)

ポピュラーなロシアの民話です。

「あまい大きなかぶになれ」と願いをこめて、おじいさんがかぶを植えます。いよいよ収穫のとき、そのかぶがたいへん大きくなっておじいさん一人の力では地中から抜けません。おばあさん、孫、犬、猫と次々に助けを呼んで「うんとこしょ、どっこいしょ」とやりますが「それでもかぶはぬけません」。最後にねずみの助けを借りて「やっとかぶはぬけました」、めでたしめでたしというストーリーです。

民話特有の「くりかえし」がおもしろく、日本語訳の「うんとこしょ、どっこいしょ」も楽しい言い回しで、こどもたちのことばが耳に残っています。

このワンフレーズで「清音、濁音、拗音、促音」全部入っていますね。小さな幼児たちにとっては、大いに有意義でありますので、ぜひ、声に出して読ませてあげましょう。

やさいのおなか



文・絵：きうち かつ
(福音館書店)

ピーマン・れんこん・にんじん・かぼちゃなどの野菜を包丁で横に切った面の絵が、いろいろのっている絵本です。はじめのページは白黒の図で「これなあに」とクイズのように問いかけられ、次の見開きのページで、色付きの断面図と全体の絵がかいてあります。

こどもの食べ物に対する興味は、いろいろな角度から育てられるものです。野菜が嫌いな子は多いと思いますが、台所で料理をする時に、この絵本に出てくるような野菜を切って、断面を見せてあげるとおもしろがります。

野菜の切り口に絵の具などを塗って、スタンプのようにペタペタおえかきして遊ぶのも楽しいですね。(ちょっともったいないですが。私も幼いころイモでハンコを作りました)

小学校入試のペーパーテストで、断面図がどの野菜なのか選ぶ問題が出題されることがありますが、絵本やふだんの生活の中で日頃から興味を育ててあげるのがよいと思います。